



DocAve® 6 ソフトウェア プラットフォーム サービス パック (SP) 3

リリース ノート

リリース日: 2013 年 7 月 31 日

新機能と強化点

全般

- [SQL Server データ マネージャー](#) モジュールを追加しました。
- SQL Server 2012 ビジネス インテリジェンス エディションに対応しました。
- ストレージ マネージャー、アーカイバ、最小単位バックアップ & リストア、プラットフォーム バックアップ & リストアに対し、Net Share および EMC 物理デバイスの WORM (Write Once, Read Many) 機能に対応しました。
- DocAve 6 SDK ドキュメントに対し、キー メソッドの例を追加しました。
- 各モジュールのツリー上で、右クリック機能を追加しました。
- コントロール パネル内の論理デバイス構成インターフェイスに対し、**BLOB データ ストレージ デバイス** を追加しました。これにより RBS 使用時にスタンバイ用のストレージ グループを追加できるようになります。
- ストレージ マネージャー、アーカイバ、最小単位バックアップ & リストアでは、ストレージ デバイス タイプとして Box、GoogleDrive、SkyDrive、Dropbox が選択できるようになりました。
- 強化されたロール ベース アクセス コントロール (RBAC) に対応しました。これによりデータ保護、管理、レポート ポイント モジュール内グループ ユーザーに対して権限を最小単位で付与できるようになります。
- コンテンツ マネージャー、レプリケーター、移行ソリューションを使用して SharePoint データを SharePoint 2010/2013 へと移行する際、通知データも移行できるようになりました。
- コンテンツ マネージャー、レプリケーター、最小単位バックアップ & リストア、SharePoint 移行ソリューションにおいて、リストア プロセスの完了後にワークフロー インスタンスの再実行が可能になりました。

インストール

- 無人インストールの際、PowerShell による DocAve データベース情報の変更に対応しました。
- SQL Azure データベースに対応しました。

Vault

- SharePoint 2013 に対応しました。

コントロール パネル

- **冗長バックアップ データ ストレージ デバイス** オプションを追加しました。また、プライマリ物理デバイスからセカンダリ物理デバイスへのデータ同期に対応しました。
- アカウント マネージャーのプラン レベルおよびプロファイル レベルで、複数のテナント グループおよび権限コントロール間で権限委譲が可能になりました。テナント グループは **Web アプリケーション テナント グループ** および個別チームの最小単位セキュリティ トリミング用の **サイト コレクション テナント グループ** に分けられます。
- 現在 DocAve では、"sharepoint.com" を除く Office 365 ドメインに対応しています。

SQL Server データ マネージャー

- InstaMount を使用したSQL バックアップ データの分析および SQL バックアップのステージング SQL インスタンスへのリストアに対応しました。
- アイテム レベルでの [別の場所へ] リストアを実行し、その後バックアップ・リストア ジョブ レポートを生成することが可能になりました。

レポート ポイント

- SQL Azure データベースに対応しました。
- **権限の変更** レポートで、**元に戻す** オプションが追加されました。これにより、レポート ポイント モジュールを一旦ログアウトして権限を修正することなく、**権限継承の解除** および **グループ メンバーの追加** アクションにおける監査済みアクションをやり直すことが可能になりました。
- レポート ポイントでは、**サイト アクティビティと利用状況** が **サイト訪問者とアクティビティ** に、**サイト利用状況** が **サイト アクティビティ ランキング** に、**相違点レポート** が **サイト コレクションの比較** に、**サイト コレクションの読み込み時間** が **サイト コレクション読み込み時間** に、**サイト アクセス** が **サイト アクション** に、それぞれ名称が変更になりました。
- 構成レポートのフォーマットを XLSX 形式にアップグレードしました。
- **SharePoint 2013 ファームの レポート ポイント > 管理レポート > ベストプラクティス レポート** で、SharePoint オブジェクト レベルに対して特定の閾値設定を定義できるようになりました。

管理

管理センター

- SharePoint 内でユーザーのアクションや設定を制御する Policy Enforcer が追加されました。既定の権限・構成設定ルールやカスタム ルールを組み合わせることでポリシーを作成することが可能です。(例: ライブラリはすべてバージョン履歴が有効となり、5 つまでのバージョンを保持、など)ポリシー内のルールに違反するアクションまたは設定があった場合、特定のユーザーに通知メールを送付できるようになりました。違反情報についてのレポートを生成できるようになりました。(SharePoint Foundation 2013 RTM および SharePoint 2010 SP1 で適用)
- SharePoint Online サイトのメタデータを変更する際、オンライン モード・オフライン モードを選択できるようになりました。SharePoint 2010 Online サイトでは、**単・複数行テキスト、数値、通貨、日付 / 時間、はい / いいえ、個人 / グループ、選択**などのメタデータ対応を追加しました。SharePoint 2013 Online サイトでは、**単・複数行テキスト、数値、通貨、日付 / 時間、はい / いいえ、Managed Metadata、個人 / グループ、選択**などのメタデータ対応を追加しました。(SharePoint 2013 RTM および SharePoint 2010 SP1 で適用)
- オンライン モードおよびオフライン モードのメタデータをアイテム レベルで変更できるようになりました。
- サイト コレクション レベルまたは Web アプリケーション レベルで **セキュリティ検索** を実行する際に **権限設定** セクションで **固有の権限のみを検索** を選択した場合、サイト コレクション レベルまたは Web アプリケーション レベルでセキュリティ検索結果をフィルターできるようになりました。(SharePoint 2013 RTM および SharePoint 2010 SP1)
- DocAve SDK 内のリンクから使用可能な Policy Enforcer SDK を作成しました。
- **一時権限を付与する** 機能により、指定ノード上でユーザーまたはグループに対して一時的に権限を付与できるようになりました。

コンテンツ マネージャー

- SharePoint 2010/2013 オンライン ワークフロー定義のコピー・移動に対応しました。
- 言語マッピング機能を使用し、移動元のリスト名とコンテンツ タイプ名を移動先に同時にマッピングできるようになりました。(SharePoint 2010 SP1 で適用)
- ジョブ モニターのリボン上に **レポート コレクタ** ボタンが追加されました。これにより複数のコンテンツ マネージャー ジョブ レポートをマージすることができます。

- SQL Server 2012 ビジネス インテリジェンス エディションに対応しました。
- プラン マネージャー インターフェイスでは、右クリックによるドロップダウン メニューに **詳細の表示、編集、削除** が追加されました。
- コンテンツ マネージャー プランを作成する際、開始時間、プラン実行の間隔、終了メソッドなどを設定して、繰り返しのスケジュールを構成できるようになりました。

展開マネージャー

- 展開マネージャー内の **プランとして保存** タブに、**OK してテストを実行** ボタンを追加しました。
- 展開マネージャー内の比較インターフェイス上にある **比較** タブでファイル / アイテム レベル、サイト設定レベル、リスト設定レベルでの比較を実行した際に、より詳細な情報が表示されるようになりました。
- 管理されたメタデータ サービス レベル展開の **キューに追加** ウィンドウで、**オプション** 設定 (完全展開ジョブまたは増分ジョブの実行に対応) を追加しました。

レプリケーター

- Web パーツをレプリケートする際、関連データも共にレプリケートされるようになりました。Web パーツとそれに依存するライブラリ・リストとの関連性は、レプリケート ジョブ後も維持されます。
- リアルタイム レプリケート作業では、SharePoint 内でのワークフロー アクション、サイト コレクション アクション、サイト アクション、バージョン アクション、グループまたはグループ内ユーザー アクション、権限・権限レベル アクションなどによるレプリケート元コンテンツの変更をレプリケートすることも可能になりました。
- **SP2010ReplicatorAnalyzer** ツールを使用することで、レプリケート ジョブの成功率を高めるための SharePoint 環境ヘルスチェックを実行できるようになりました。
- サイト コレクション レベルでのレプリケート ジョブの場合、マルチ スレッドに対応しました。
- オンライン レプリケーターで、HTTP モードを使用したデータ転送に対応しました。これにより新たにファイアウォール上でポートを解放する必要がなくなります。
- オンライン レプリケート ジョブで使用可能だったバイト レベル差分が、オフライン移行でも使用できるようになりました。

データ保護

スタンバイ センター

- SharePoint 2010 に新たに対応しました。

プラットフォーム バックアップ & リカバリー

- SharePoint 2010 でのプロジェクト サーバーのバックアップ・リストアに対応しました。
- プラットフォーム バックアップ ジョブのインデックス生成の効率を向上しました。
- エージェント アカウントによる InstaMount 用 VSS バックアップ データのリストア時、sysadmin およびローカル管理者権限が必要なくなりました。
- プラン マネージャーのリボン上で **テストを実行** を選択することで、プラットフォーム バックアップ ジョブを実行する前に権限と前提条件を確認するシミュレーションを行うことができるようになりました。
- アプリ管理サービス、プロジェクト サーバー サービス アプリケーション、Access サービス、検索サービス アプリケーション、PowerPoint 変換サービス アプリケーションの [別の場所へ] リストアに対応しました。
- SharePoint 2013 でのファーム リビルド機能に対応しました。
- ストレージ マネージャーおよびコネクタの BLOB データにおける増分バックアップ ジョブ実行に対応しました。また、ファイル サーバーおよびアプリケーション サーバーが Windows 8 または Windows Server 2012 オペレーション システム内にある場合、FSRVP を使用したスナップショットの取得に対応しました。

最小単位バックアップ & リカバリー

- SharePoint 2013 アプリ カタログおよび個別アプリのバックアップ・リストアに対応しました。
- SharePoint Online 2013 built-in ワークフロー定義および SharePoint Designer 2010 ワークフロー定義のバックアップおよびリストアに対応しました。
- SharePoint built-in ワークフローおよび Nintex ワークフローのスケジュールのバックアップに対応しました。(SharePoint 2010 で適用)
- 単一ユーザーの権限のリストアに対応しました。
- リストア先に保存されたワークフローの再実行に対応しました。

- **エンドユーザー リストア** 機能に対応しました。これによりバックアップ済み SharePoint コンテンツをライブラリ、リスト、フォルダー、ドキュメント、アイテム、添付ファイルなどあらゆるレベルでリストアすることが可能になります。
- バックアップ ジョブの一時停止および再開が可能になりました。

ストレージ最適化

コネクタ

- プロパティ マッピング内で **ファイル システムの検索 プロパティ**を追加しました。これにより、大量のプロパティの中から特定のプロパティを検索することが可能になります。(SharePoint 2010 SP1 で適用)
- PowerShell によるコネクタ パス作成に対応しました。
- プロパティ マッピングの新規作成時、メディア ライブラリのファイル プロパティをこれまで以上に読み込むことが可能になりました。
- 接続済みコンテンツがどこにあるかを識別し、このコンテンツをストレージ クォータとの比較を行うダッシュボードを追加しました。

アーカイバ

- アーカイブ前に **Autonomy** または **Concordance** 形式でコンテンツをエクスポートできるようになりました。
- アーカイバ内の **最終アクセス時刻 ルール**を、**サイト コレクション レベル**、**サイト レベル**、**リスト / ドキュメント レベル**、**アイテム レベル**、**添付ファイル レベル**でも使用できるようになりました。
- エンドユーザー アーカイバ権限を、アーカイブ作業およびアーカイブ データのダウンロード、検索、リストアを行う特定のユーザーまたはグループに付与できるようになりました。

ストレージ マネージャー

- エクスポート済みストレージ レポートに **最終アクセス時刻** 列を追加しました。
- ごみ箱内の DocAve 5 スタブを DocAve 6 スタブへアップグレードすることができるようになりました。
- ストレージ マネージャー内で孤立した BLOB の整理を実行する際、特定ノードで使用される処理ルールを表示することができるようになりました。
- スケジュール ストレージ マネージャーのルールを作成する際、新たに追加された **コネクタのデータを含める** オプションを使用すると、接続されたファイルシェア ライブラリのコンテンツを優先することが可能になります。これにより、データが元のストレージ場所に維持されているか、あるいは移動先のストレージ場所に移されているかを調べることができます。
- スケジュール ストレージ マネージャーで新しくルールを作成する際、**条件** フィールド内のドキュメント レベル、ドキュメント バージョン レベル、添付ファイル レベルで **最終アクセス時刻** ルールを使用できるようになりました。
- スタブを含むコンテンツ データベースとスタブ データベースを別のファームへ添付する際、デバイスのマッピング用に PowerShell ツールが使用可能になりました。これにより、元のデバイスから移動先デバイスへの BLOB のコピーや移動先スタブ データベースでのスタブ情報の更新などが可能になるため、新しいファームでもスタブを活用することができます。
- 新機能となるリアルタイム・スケジュール ストレージ マネージャーの **ストレージ レポート** では、SQL データ、拡張 BLOB、孤立したスタブ、孤立した BLOB などの詳細な情報を保存済みストレージ レポート プロファイル内のノード毎に記録し、DocAve 上に表示します。

移行

- SharePoint 以外の移行で増分ジョブを実行する場合、プラン作成時に失敗したオブジェクトのみが再移行ジョブの対象となります。

EMC Documentum 移行

- EMC Documentum コンテンツの SharePoint 2013 への移行に対応しました。
- 予測移行結果を生成するテストの実行に対応しました。
- eRoom 移行スキャン ツールを使用し、移行前に移行元コンテンツ内でエラーを検索することが可能になりました。

パブリック フォルダ移行

- Exchange サーバー 2013 から SharePoint へのデータ移行に対応しました。

ファイル システム移行

- 以下の 10 種類の PDF 形式ドキュメント特別プロパティに対応しました: PDF Mod Date Excel、PDF Creation Data Excel、PDF Title、PDF Author、PDF Subject、PDF Keywords、PDF Creator、PDF Producer、PDF Flags、PDF Version
- ファイル システム移行スキャン ツールによるレポートのエクスポートに対応しました。
- ファイル システム移行では、SharePoint Online サイトへのコンテンツ直接移行に対応しました。

Notes/Domino 移行

- 増分移行では、前回の移行ジョブ以降に更新されたコンテンツだけでなく、前回の移行ジョブで移行に失敗したコンテンツについても移行することが可能になりました。(SharePoint 2013 RTM および SharePoint 2010 SP1 に適用)
- Notes/Domino 移行の移行ツールで、**分析をスキャン** 機能を追加しました。
- DocAve 移行ツールは、DocAve 6 SP3 インストール パッケージに含まれるようになりました。

Quickr 移行

- Quickr から SharePoint 2013 への移行に対応しました。
- Quickr 移行では、前回の移行ジョブ以降に更新されたコンテンツだけでなく、前回の移行ジョブで移行に失敗したコンテンツについても移行することが可能になりました。

SharePoint 移行

- SharePoint 既定のコンテンツ タイプとカスタム コンテンツ タイプ間のマッピングに対応しました。
- SharePoint 2007 および SharePoint 2010 から SharePoint Online への移行に対応しました。
- ジョブ モニター内の **ジョブ詳細** タブに **提案** 列が追加されました。これにより移行ジョブのテストを実行することができます。この場合の列の値は、移行ジョブを実行する際に発生する可能性のある問題への提案となります。
- SharePoint 2013 オフライン移行ジョブに対応しました。

既知の問題

レポート ポイント

- ファーム レベルでのベスト プラクティス レポートには、評価カウントは含まれていません。(SharePoint 2013 で適用)

ストレージ最適化

コネクタ

- SharePoint ドキュメント ライブラリから変換した DocAve コンテンツ ライブラリ内のフォルダーでは、SharePoint フォルダー内で行った変更が正しく同期されない場合があります。(SharePoint 2013 で適用)
- フォルダーをコネクタのライブラリ間で移動した後に削除し、その後完全同期ジョブを実行すると、ネット シェア ストレージ場所内のフォルダーは削除されないまま残ります。
- SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのテンプレートを使用して作成した SharePoint 2013 サイト コレクションでは、コネクタのライブラリを作成することはできません。
- エージェント サービスの中断中に SharePoint コネクタ ライブラリ内のファイルおよびフォルダーの名前が変更された場合、変更は構成パスの先には同期されません。
- SharePoint 2010 から SharePoint 2013 にアップグレードする際、コネクタ ライブラリに変換したメディア ライブラリは現状アップグレードすることができません。メディア ライブラリ内のデータは、アップグレード後は使用できなくなります。
- Information Rights Management は、SharePoint の制限の理由から接続データのバージョン ファイルには対応していません。

管理

コンテンツ マネージャー

- コンテンツ マネージャー ジョブを実行してオンプレミスの SharePoint サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションへ移行する場合、アンケート リスト内の **Completed** 列の値は移行元の **いいえ** から移行先の **はい** に変わります。(SharePoint 2010 で適用)
- SharePoint オンプレミス ファーム内のドキュメント ライブラリから SharePoint Online ファーム内のライブラリに SharePoint オブジェクトを手動でコピーするコンテンツ マネージャー ジョブの実行後、列マッピング内で構成済みの **管理されたメタデータに変更する** 設定 (複数の用語の値を許可する) が正常に動作しません。移行元の列の値は移行先で失われます。(SharePoint 2013 で適用)
- コンテンツ マネージャー ジョブを実行して SharePoint オブジェクトを (ディスカッション リストを含めた) コミュニティ サイトから (ディスカッション リストを含めた) チーム サイトへコピーすると、コピー元のディスカッションはコピー先で使用できなくなります。この場合、リスト設定内の **削除 アクション** がコピー先で非表示となり、**サイト コミュニティ 機能** がコピー先で使用不可となります。(SharePoint 2013 で適用)
- エクスペリエンス バージョンが 2010 かつドキュメント設定機能を有効化しているサイト コレクション からエクスペリエンス バージョンが 2013 であるサイト コレクションにSharePoint オブジェクトをコピーすると、コピー元のドキュメント設定はコピー先サイト コレクションへコピーされません。(SharePoint Online 2013 ファームで適用)

展開マネージャー

- 展開元および展開先両方のコンテンツ タイプで名前が一致しているがタイプが一致しない場合、コンテンツ タイプは展開先で上書きされません。この場合、元の名前の末尾に数字を追加して新しくコンテンツ名が作成されます。(SharePoint 2010 で適用)

インストール

- Windows アップデート KB2756920 をインストールした後にコントロール サービスにアクセスできない状態が発生した場合、ホットフィックス KB2637518 をインストールすることで解決します。ダウンロードリンクは [Microsoft® のサポート ナレッジベース](#) 内にあります。

レプリケーター

- コンテンツ クエリ Web パーツ コンテンツは、レプリケート先で正しく表示されない場合があります。これはコンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート先に存在せず、そのためレプリケート ジョブに含まれない場合があるためです。この問題の解決法として、コンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート元のスコープに含まれているか、レプリケート先に存在しているかを確認する必要があります。(SharePoint 2010 で適用)
- SharePoint 2010 環境内で関連用語をアイテム レベルでレプリケートする際の問題を回避するため、Managed Metadata Service がレプリケート元・レプリケート先の両環境内の Web アプリケーションに関連付けられていることを確認してください。
- SharePoint 2013 の保持および eDiscovery 機能によって新たに作成されたファイル バージョンは、リアルタイム レプリケーションによる複製の対象にはなりません。これは新規作成ファイルが過去のバージョンの更新日時を保持しているためです。この場合、ファイルはスケジュール レプリケート ジョブが実行されるタイミングでレプリケートされます。
- サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグループのユーザー名は、1024 以上の長さに設定することはできません。(SharePoint 2013 に適用)

データ保護

スタンバイ センター

- スタンバイ センターは、Sharepoint 2010 のみに対応しています。
- ダッシュボードで複数のグループが選択されている場合、スタンバイ センターの同期・フェールオーバー ジョブが失敗することがあります。

プラットフォーム バックアップ & リカバリー

- SharePoint 2013 ファーム内に複数の Search Service アプリケーションが存在しており、かつインデックス コンポーネントが同一 SharePoint サーバー内に保管されていない場合、Search Service アプリケーション バックアップの際にインデックス コンポーネントをバックアップすることはできません。
- TDE 暗号化済みデータベースを対象に [別の場所へリストア] を実行する前にリストア元のマスターキーをリストア先で生成していない場合、[別の場所へリストア] ジョブは失敗します。この回避策として、リストア先 SQL Server 上で以下のコマンドを使用し、リストア元と同じマスターキーを生成します。

```
"USE master;
```

```
GO
```

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>';
```

```
Go"
```

その後 [別の場所へリストア] ジョブを実行し、TDE 暗号化済みデータベースをリストアします。

TDE 暗号化済みデータベースのバックアップの [別の場所へ] リストアを実行する場合、マスターキーが必要です。リストア先の SQL Server でマスターキーを作成するには、以下の SQL ステートメントを使用してください。

```
"USE master;
```

```
GO
```

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>';
```

```
Go"
```

バックアップ ジョブの実行前にエレメント `<ForceUseCache>false</ForceUseCache>` の値を **[true]** に変更すると、インデックスを正常に生成することができます。

最小単位バックアップ&リカバリー

- ドメイン マッピングを使用する際、ドメイン サフィックスが追加されている場合はドメイン マッピングが適用されません。例: [ドメイン名].com (SharePoint 2013 で適用)
- 権限の継承を解除したサブサイトがあるサイト コレクションをリストアする場合、リストア後のサブサイトは権限を継承し、バックアップ ジョブ前に作成したアクセス許可レベルはすべてサイト コレクションのアクセス許可レベルに含まれます。(SharePoint 2013 で適用)
- サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグループのユーザー名は、対応するデータベースの指定のフィールドに保管されます。この指定のフィールドの長さは、1024 以上に設定することができません。(SharePoint 2013 で適用)

通知

本書に含まれる内容は AvePoint Japan が所有かつ提供し、AvePoint Japan およびライセンス所有者に帰属します。本書の内容は著作権および商標登録およびその他所有に関わる法律によって保護されます。本書に掲載する通知および著作権の情報のいかなる削除ならびに変更も禁じます。

著作権

Copyright © 2013 AvePoint Japan K.K. All rights reserved. 本書の著作権は AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報はすべて日本著作権法において保護されており、内容の無断複製、更新、転載を禁じます。本書のいかなる部分、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複製、記録などのいかなる方法、あるいは AvePoint Japan 株式会社（〒108-0075 東京都港区港南 2 丁目 4-15 品川サンケイビル 2 階）、ならびに本書に掲載する情報がサードパーティに所有される場合サードパーティによる事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信を禁じます。また上記の如何に関わらず、本発行物内の AvePoint 関連の情報（派生物及び変化物を含む）の何人による複製及び転載も禁じます。また、如何なる複製物並びに転載物も自動的に AvePoint に属するものとし、該当者または継承者、担当者、相続者、恩恵者、実行者のいずれも該当複製物並びに転載物を直ちに AvePoint へ返却し、必要書類に署名することに同意するものとします。

登録商標

AvePoint®、DocAve®、AvePoint ロゴおよび AvePoint ピラミッド ロゴは AvePoint Japan 株式会社による日本特許庁登録済みの商標です。これらの登録商標および本書に使用されている他の商標はすべて AvePoint の専有プロパティであり、文書による許諾なしには使用できません。

Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007/2010/2013、SharePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、および Windows はマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。

Adobe Acrobat、および Acrobat Reader は Adobe Systems, Inc の商標です。

その他本書に掲載されている商標はすべて該当の所有者のプロパティであり、許諾なしに使用することを禁じます。

変更

本書の情報は情報提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供するよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく AvePoint ソフトウェアのグラフィック ユーザー インターフェイスを変更する権利を所有しています。

AvePoint Japan 株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 2 丁目 4-15
品川サンケイビル 2 階